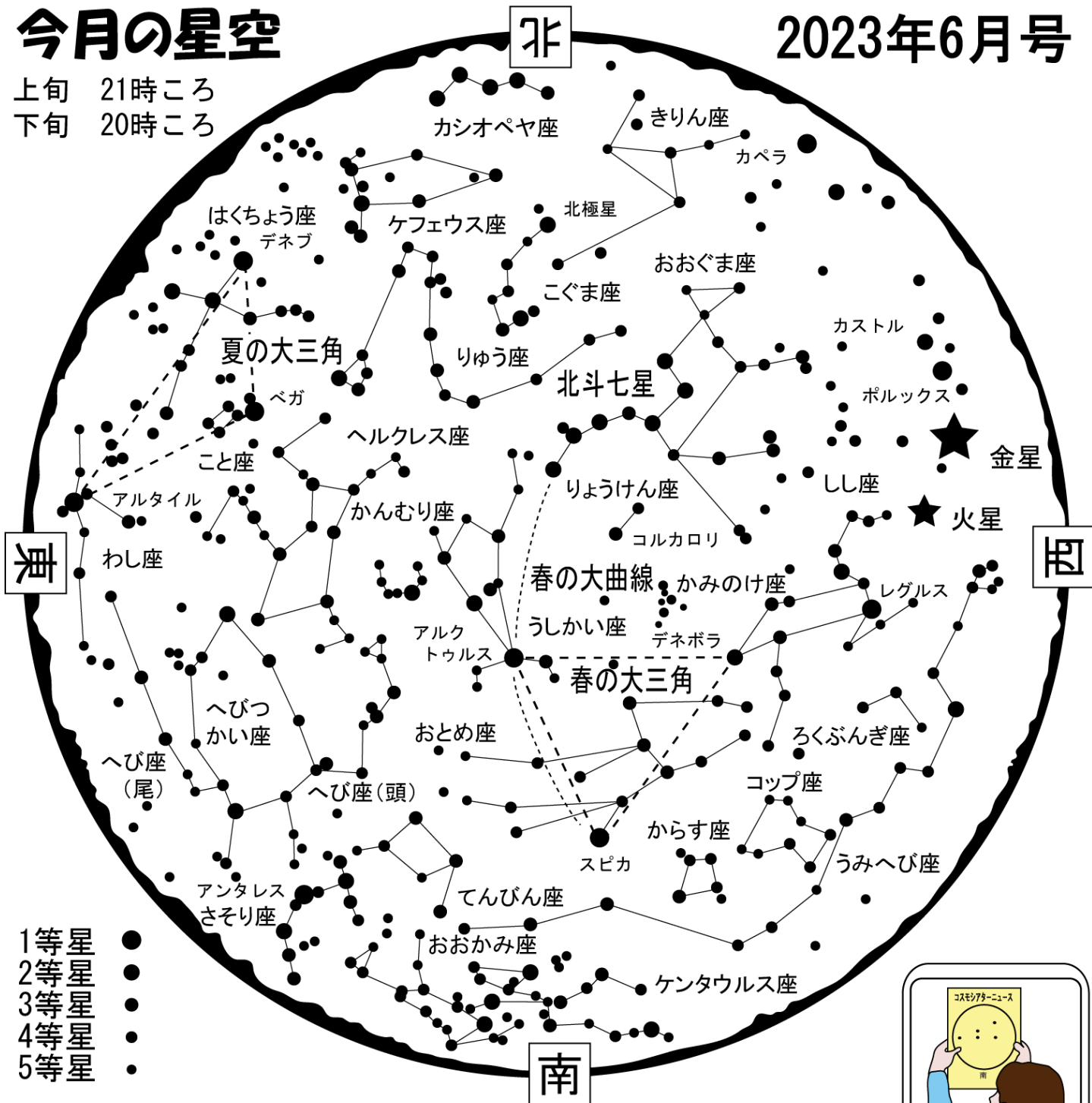


コスモシアターニュース

今月の星空

2023年6月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



- 1等星 ●
- 2等星 ●
- 3等星 ●
- 4等星 ●
- 5等星 ●

★惑星の動き

水星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
 金星：夕方、西の空に見えます。22時すぎに沈んでしまいます。明るさは-4.5等星です。
 火星：空が暗くなるころ西の空に見え、深夜に沈みます。明るさは1.5等星です。
 木星：明け方、東の空に見えます。明るさは2等星です。
 土星：明け方前、南東の空に見えます。明るさは1等星です。



自分の向いている方向を下にして、見てください

今月の月の満ち欠け

満月：4日(日) 下弦：11日(日) 新月：18日(日) 上弦：26日(月)

4日(日)、ストロベリームーン

6月の満月を、ストロベリームーンと呼びます。このころに、イチゴの収穫時期を迎えるから、高さが低く、大気の影響で、いつもより赤く見えることが多いなどの、理由があるそうです。6月の空は梅雨の時期で、水蒸気が多く、空がぼんやりと白くなるが多くなります。このため、月もぼんやりと見えるが多くなります。さて、今年のストロベリームーンはどんな色に見えるのでしょうか？ 月の色が変わって見えるのは、昇り始めの20時から20時30分ころです。月が空高く昇ると、白色になるので、21時ころまでがチャンスです。月の見える方向は、東南東の空です。高さが低いので、見晴らしがよい所をご覧ください。

10日(土)、未明の東の空で、月と土星が並んで輝く

10日(土)の午前0時すぎ、ほぼ半分欠けた月が東の空に昇ってきます。その後、午前1時ころには高さが高くなり、見やすくなります。そんな午前1時ころ、月のすぐ左側に、明るめの星が見えています。これが土星です。普通の1等星ですので、月が明るくあまり目立たないかもしれません。土曜日の未明の現象ですが、9日(金)の夜になりますので、間違えないようにご覧ください。

14日(水)、明け方の東の空で、月と木星が並んで輝く

14日(水)の午前4時ころ、東の空に細い月が輝きます。そして、この月の少し下を見ると、明るい星が輝いているのが分かるでしょう。この星が木星です。木星は-2等星で、普通の1等星の10倍以上明るいので、大変目につくでしょう。なお、15日(木)は、月が木星の右下に移動しますが、比較的接近した状態が続きます。

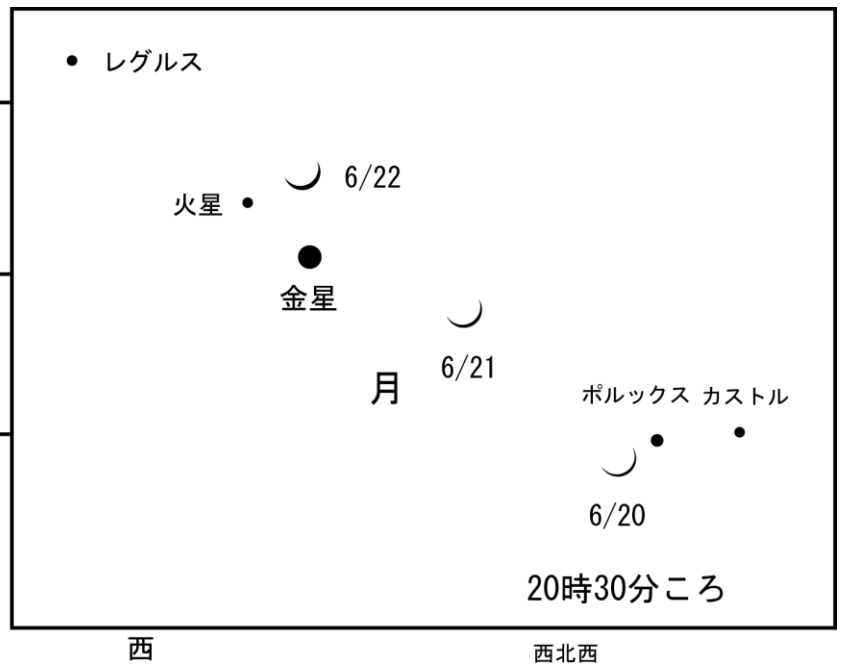
22日(木)、夕方の西の空で、月と金星、火星が並んで輝く

22日(木)の20時30分ころ、西の空に、細い月が輝きます。そして、この月の少し下を見ると、金星が輝いているのがたいへん目に付くでしょう。金星が大変明るいので、20時ころに見ると、美しい夕焼けが加わり、より美しく見えます。

さて、22日は、月のすぐ左側に火星が見えています。ただし、金星よりかなり暗いので、注意深く探してください。

ところで、月は、20日(火)から、夕方の西の空に見えます。20日は、ふたご座のカストルとポルックスのすぐ左側、21日(水)は、金星の右下へと、位置を変えながら、少しずつ太くなります。

20日から22日は、天気がよければ、月が場所を変えながら、太く明るくなっていく姿が観察できます。ただし、名前が付いている星は、1等星から2等星です。肉眼で見えますが、普通の明るめの星で、金星ほど明るくはありません。



春の星を見つけよう

6月になっても、まだ、夏より春の星が南の空高く輝きます。右の図は21時ころ、南の空を見た時の様子です。左が東、右が西になります。春の星座の中で最も明るい星が、うしかい座のアルクトゥルスです。この星は、21時ころ南の空高く見えています。

このアルクトゥルスを目印に、南の空を眺めると、右下におとめ座のスピカ、右側にしし座のデネボラが見つかります。そして、これらの星を図のように結ぶと、春の大三角が完成します。なお、三角の星の中で、デネボラは少し暗めの星なので、分かりにくいこともあります。いっぽう、北の空には、北斗七星が輝いています。この先の星の並びを結んで南側に延びていくカーブを、春の大曲線と呼びます。春の大曲線の途中のアルクトゥルスとスピカは、明るく目につく星で、春の夫婦星と呼ばれています。

最後に、春の大曲線をさらに右に伸ばすと、からす座の星の並びにぶつかります。4つの星はあまり明るくはありませんが、比較的見つけやすい星の並びになっています。

